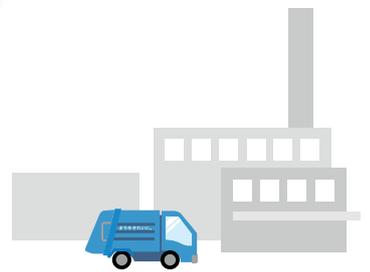


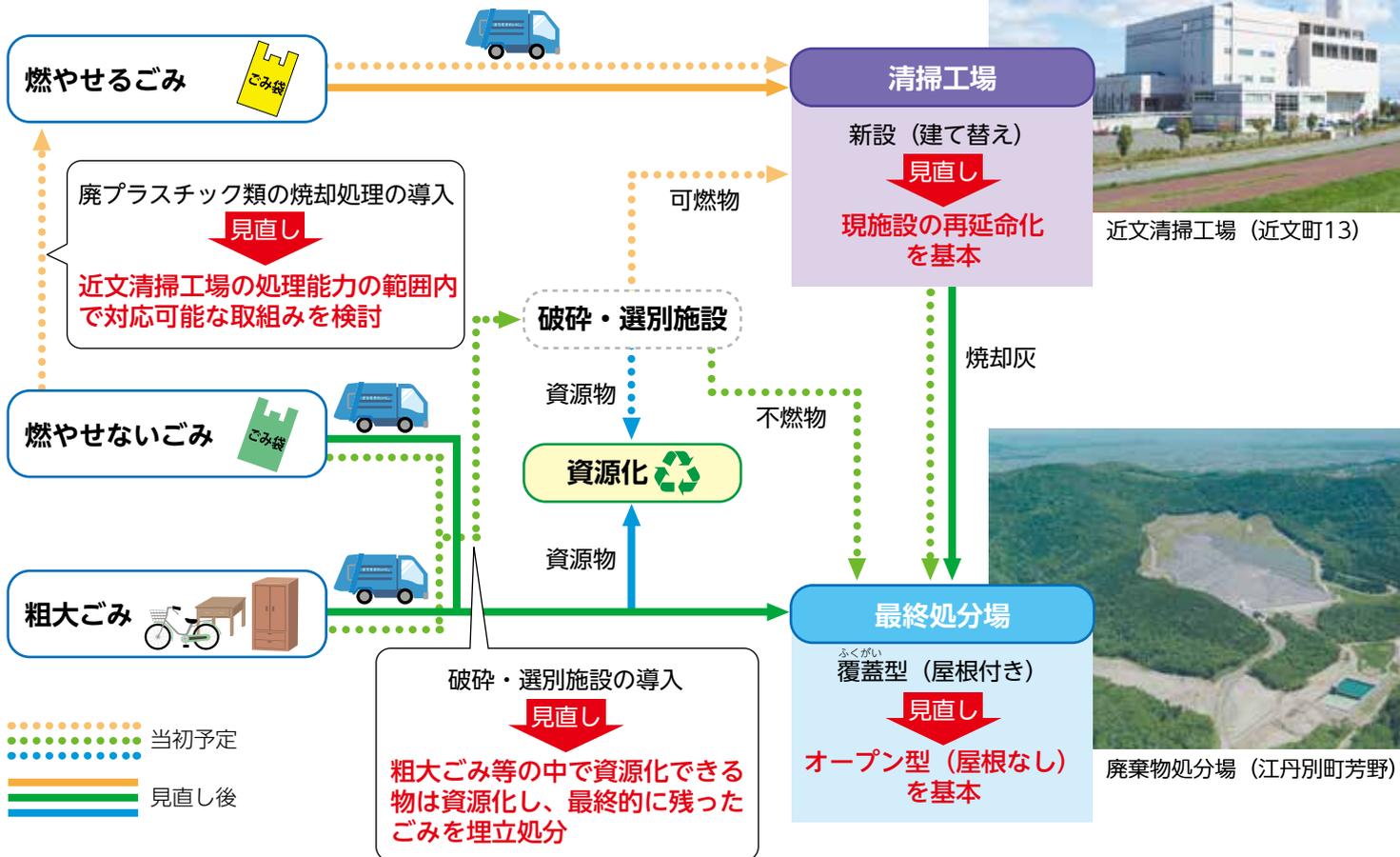
ごみ処理施設の 整備の方向性を見直します

市ではこれまで、近文清掃工場と廃棄物処分場の更新に合わせ、環境への負荷がより少なくなるよう、ごみ処理の流れ（システム）を見直し、新しいシステムへの移行を目指してきました。しかし、整備コストの高騰など状況の変化を踏まえ、適正なごみ処理体制を確保しつつ、実現可能な整備に向けて方向性を見直すこととしました。

【詳細】清掃施設整備課 ☎25・9751



ごみ処理の流れのイメージ（当初予定と見直し後）



施設整備の方向性

	当初予定	見直し後
清掃工場	<ul style="list-style-type: none"> ● 破砕・選別施設の導入 ● 工場全体を建て替える「新設」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 破砕・選別施設の導入見送り ● 設備等を改修して現施設を活用する「再延命化」
最終処分場	<ul style="list-style-type: none"> ● 埋立対象物の絞り込み ● 埋立容量約16万㎡ ● 埋立地に屋根を架ける「覆蓋型」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行と同じ埋立対象物 ● 埋立容量最大約64万㎡ ● 埋立地に屋根を架けない「オープン型」

今後、近文清掃工場の処理能力の範囲内で埋立から焼却に移行できるごみを調査・検討し、可能な限り環境への負荷が少なくなるよう取組みを進めていきます。今回見直した内容を「旭川市ごみ処理施設整備基本方針案」として取りまとめ、6/24(木)までご意見を受け付けています。詳しくは、本誌5月号20ページや市☎をご覧ください。

